

(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

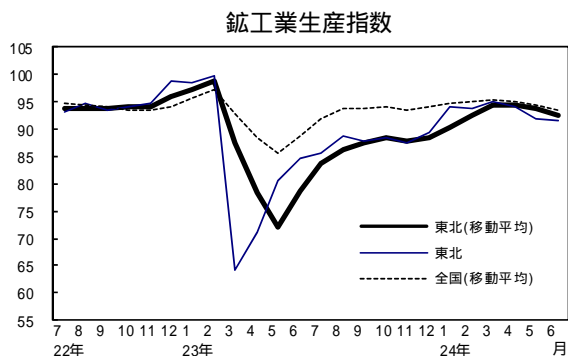
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年5月)	今回(平成24年8月)	
景況判断	東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、総じてみれば <u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	
鉱工業生産	増加	<u>おおむね横ばい</u>	
個人消費	<u>おおむね横ばい</u>	<u>緩やかに増加</u>	
雇用情勢	東日本大震災の影響により、 <u>厳しい状況にあるものの、持ち直し</u>	<u>厳しい状況にあるものの、改善</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、円高や半導体需要の低迷によりモス型半導体集積回路等が低下に寄与したこと等から減少している。食料品・たばこは、生菓子等が低下に寄与し、減少している。一般機械は、半導体関連が伸びないことや円高の状況を踏まえて海外での生産比率を高める傾向があること等から減少している。情報通信機械は、前期にノート型パソコン等がタイの洪水の影響によるばん回生産により増加しており、それに対する反動等から減少している。化学は、医薬品の生産が増えたこと等から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

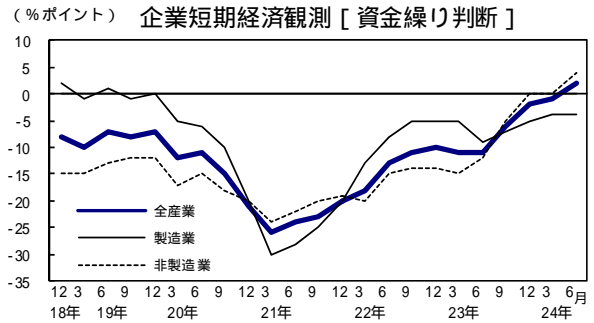
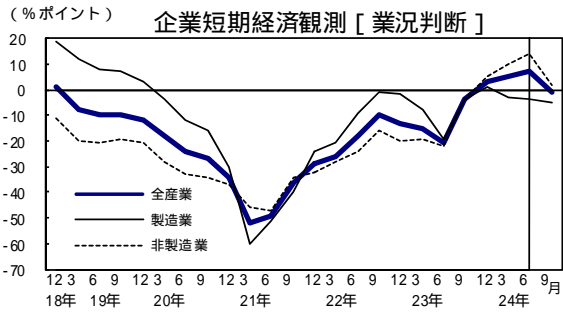
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	17.9	6.8	10.9	17.2	4.0
食料品・たばこ	11.8	7.2	1.5	3.1	9.6
一般機械	10.1	3.9	3.8	6.9	13.4
情報通信機械	9.6	23.0	10.4	1.9	12.2
化学	7.0	3.2	10.9	13.1	24.9
鉱工業	100.0	6.7	1.9	1.5	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

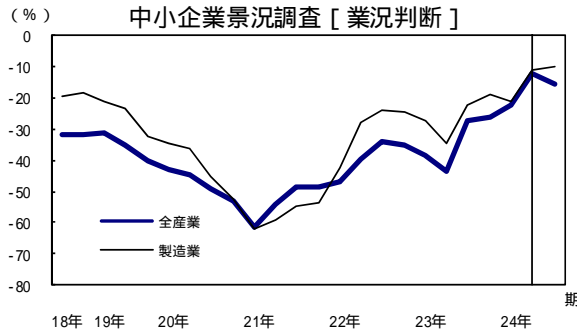
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

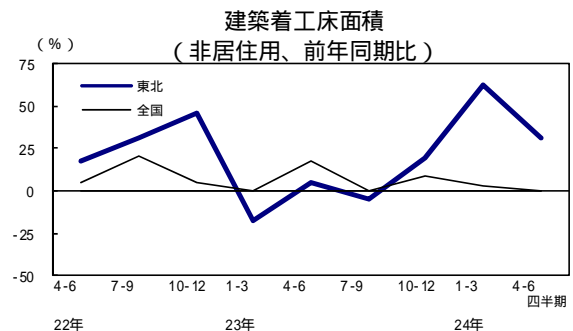
「客に自然災害への意識が強く残っており、住宅の外部改修やリフォーム工事に根強い人気がある(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	3.1(3.4)	17.7(2.7)
製造業	2.7(1.8)	27.0(2.5)
非製造業	13.9(13.0)	2.8(2.9)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

大型小売店販売額

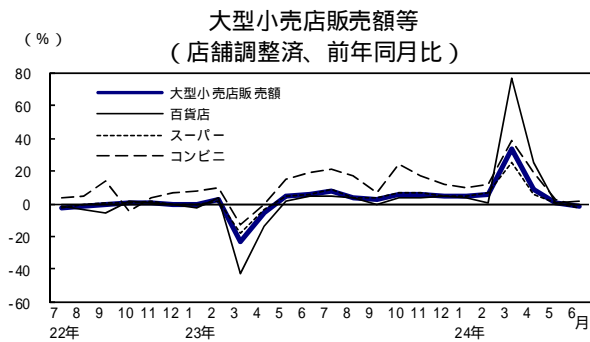
大型小売店販売額は、前年同期比で2.2%増、前期比で0.5%増となった。

百貨店は、4月が主力の衣料品で紳士、婦人とも春物が好調のため、前年を上回った。5月は、紳士、婦人とも初夏物衣料が好調だったほか、ハンドバッグ、アクセサリなどが好調だったこと等から前年を上回った。6月は、紳士、婦人とも夏物衣料が好調だったほか、家庭用品の食器やキッチン用品など好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品の生鮮食料品などが好調だったことや、衣料品の羽織物や肌着が好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「当県は引き続き復興需要が堅調である。他県に比べるとテレビの停波による影響も少なく、売上は堅調に推移している。今後もこういった電力会社からの賠償金等を見込んでの買い物もあるようである(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	4.9	5.4	12.8	2.2
百貨店(*1)	2.5	4.2	20.6	8.3
スーパー(*1)	5.4	5.8	11.1	1.0
大型小売店(*2)	2.7	3.8	12.3	4.9
(季節調整値)(*3)	(4.6)	(0.7)	(1.2)	(0.5)
乗用車(*4)	7.8	35.6	71.9	49.7
(季節調整値)(*4)	(24.6)	(3.0)	(10.9)	(6.0)

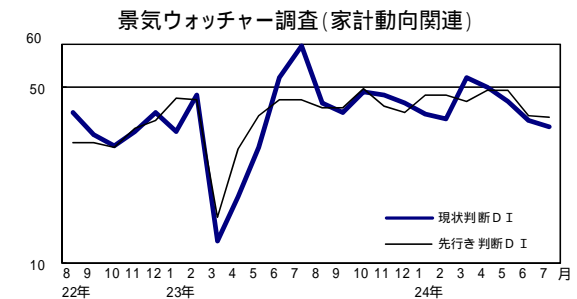
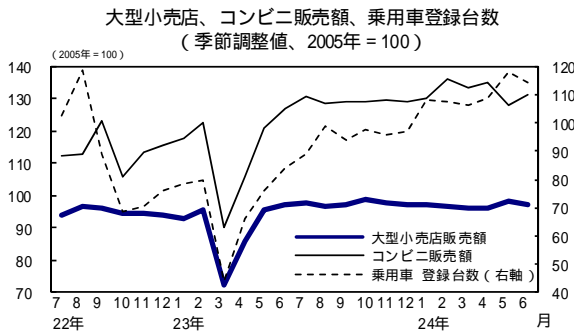
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

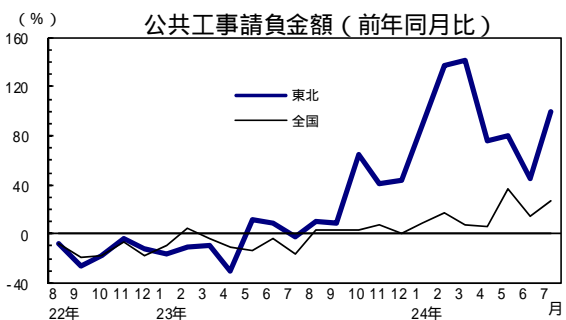
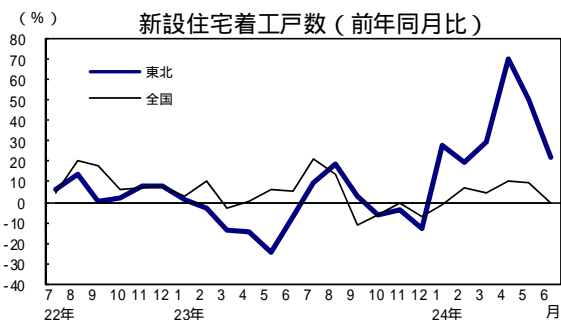
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

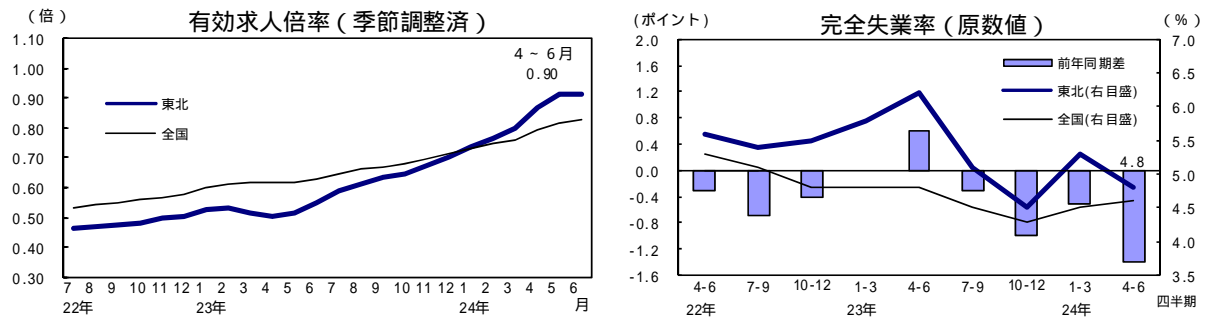


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 23年1-3月期から7-9月期の数値は補完推計値であり、23年1-3月期から7-9月期及び24年の各期の前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

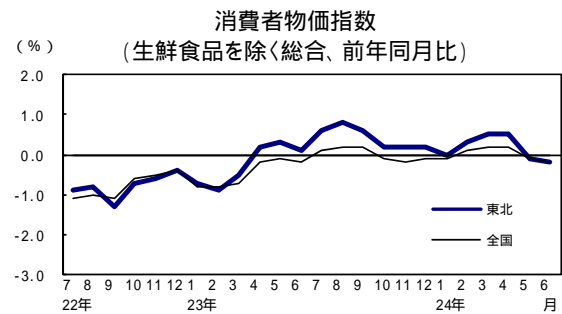
「求人はあるものの、依然ミスマッチが続いている(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	160	121	125	123	33
(前年比)	11.6	37.6	20.4	21.2	51.5
負債総額	741	543	467	408	52
(前年比)	35.9	7.0	19.5	19.5	80.9



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・来月にはお盆があるので、仏壇関連の販売をしている当店としては小物を中心に売上が伸びている(住関連専門店)

<先行き>

・果物、特にものの仕上がりが天候の加減で遅れをばん回しそうである。お盆前にはある程度の高値で売れる見込みはあるが、風評被害でまだまだである(農林水産業)

